

仕事納め式での挨拶

H26. 12. 26 (金)

皆さん、おはようございます。仕事納めに際しまして、一言ご挨拶を申し上げます。

今年を振り返ってみて、私が第一に感ずることは、「島根が全国の人達によく知られるようになった年だったなあ」ということです。

実は、昨日、今年最後の定例記者会見がありまして、そこでそういったことを述べたのです。

昨年の出雲大社の本殿遷座祭の後も、多くの方々が島根にお出でになるという動きが今年も続きました。

そして、高円宮家の典子さまと出雲大社権宮司の国麿さんの「平成の縁結び」とも言うべきご婚儀が全国の人々の関心を集めました。

そしてまた、松江出身の錦織圭さんの大活躍で、「島根とはそんな世界のトップ選手が育つようなところなのか」といった良いイメージを人々に与えたと思われます。

先日、日本有線大賞を受けられた「水森かおりさん」が、年末のNHK紅白歌合戦に出場され、「島根恋旅」を歌われることが昨日決定しました。これも、大変嬉しいニュースです。

こうしたことから、最近では島根と言えば「縁結びの国」で、どうも「いいところ」らしいという良いイメージが広がり、旅行業者の人たちも島根観光の説明がしやすくなった、などと嬉しいことを言って下さいます。

この勢いが、全県下、石見にも、隠岐にも、中山間地域にも及ぶように、さらに努力していかなければなりません。

そして観光だけではなく、ITなどでも東京の業界の人たちには、松江と言えばルビ一の町、ソフトウェアの拠点というイメージが段々出来てきているようで、最近、ソフトウェア企業の立地に少し弾みがついてきているようです。

ものづくり産業対策としては、タイ・バンコクにPRオフィスも作り、活動が国外にも広がっています。

また、農林水産業の分野においても、自然豊かな島根にU・Iターンを希望する大都市などの若い人たちが増えているようです。それで島根定住フェアなどに、多くの人が来られるようになっているようです。

さて、こうした中、ご承知のように今、政府は日本の人口減少問題に初めて本格的に取り組もうとしています。島根にとって有り難いことです。

そして、アベノミクスの効果が地方に及び、地方が活性化するように支援を強化しようとしています。一昨日、第三次安倍内閣が成立し、年内に経済対策と税制改正大綱を取りまとめ、年明けに補正予算と来年度予算の編成を行うこととされています。

しかし、今年4月の消費税3%引き上げによる消費の停滞などから、消費税の2%引き上げが1年半延期され、国の財政状況は引き続き厳しい状況が続いています。

世界では、米国の金融緩和の終了の動きと日本のゼロ金利の継続などから円安が生じており、この影響が日本経済全体、そして地方経済にどのように及ぶのか、なお不透明です。

世界経済の成長をリードしてきた中国など新興国も、ドル高とドル資産への資金流出によって、どのような影響が出るか、これが世界の経済・金融市場にどのような影響を及ぼすのかなど、やや気がかりな要素もあります。

こうした先行きの予測の難しい時期にありますが、私どもとしましては、政府が地方を大事にしていこうとしている、いわばこの「好機」を大いに活用して、地方創生に向け全力を尽くしていかなければなりません。

今年一年、皆さんには、地方創生、安全安心な島根づくり、災害復旧、社会福祉・教育の充実など、それぞれの分野で本当に忙しい一年であったと思いますが、皆さんには県民の方々のために職務に精励をされ、一生懸命頑張ってくださいました。

その努力に対して、心から感謝の意を表したいと思います。

今年は、9日間の長い年末年始の休みに入りますが、皆さんにはゆっくりと休養をとられて、また来年にそなえ英気を養っていただきたいと思います。

そして来年が県民の皆様にとりまして、明るく、活気のある年となりますよう、皆さんとともに一丸となって、取り組んでいきたいと思います。

県民の皆様、職員の皆様、それぞれよい年をお迎えになりますよう、心からお祈り申し上げます。私の挨拶と致します。

※当日は、この原稿を元に若干の修正を加えて挨拶を行っています。